

4 県の要求水準に対する評価

本県ゆかりの文学作家を顕彰し、高知の文学の魅力を伝えるとともに、県民の文学への関心を高める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき県関係の作家の資料を収集し、適切に保存する

評価項目 (1) 作家や関係者との信頼関係を築き、特色のある資料の充実に努める

状 況 説 明

所蔵資料は、平成27年度末時点で66,924点、前年度末から1,359点の増加となった。

<27年度の主な寄贈資料>

寺田寅彦関係資料・弟子 宮部直巳宛書簡、論文冊子等 69点

宮尾登美子関係資料・書簡、色紙、草稿、写真等 138点

現役作家・有川浩氏受賞トロフィー等 3点

評 価	理 由
A	作家や関係者と良好な関係を構築し、資料の寄贈・寄託につなげており、平時の地道な積み重ねが成果として表れている。

評価項目(2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

1) 体制の確保

・資料班において契約職員2名が専属で担当し、着実に保存整理を進めている。

2) 展示保存の技術・意識の向上

・自主企画研修で習得した環境調査ノウハウを実践で活かし、資料の適正な保管及び展示のため、収蔵庫や展示室内の環境調査に取り組んだ。

・26年度から実施している有害虫駆除の予防策(IPM)の活動を継続し、全職員が交代制で毎朝開館30分前に点検を実施し、環境の改善措置を行った。

3) 資料の整理・管理

・新規資料、未登録資料等の登録及び情報の補完等、更新作業を行った。

新規登録1,359点 更新資料1,409点

・壁付き展示ケース内にデータ・ログ(記録装置)を配置し、温室度を長期的に記録し、展示環境改善の資料としている。温室度環境によって展示資料を実物から複製等に入れ換えた。

評価	理由
B	良好な保存・展示環境を作ることでリスクを軽減するという活動に取り組んでおり、常に保存・展示環境に気を配る習慣を身につける努力が認められる。

要求水準－調査・研究

高知の文学や作家について研究を進め、その成果を公開する

評価項目（1） 職員の専門性の向上を図るとともに、高知の文学や作家に関する調査研究を進める

状況説明

1) 所蔵資料の調査研究

所蔵資料を体系的に分類・整理し、顕彰作家や作品の調査研究を行っている。

2) 企画展のための調査研究

・宮尾登美子氏の追悼企画展「ありがとう宮尾登美子さん～88年の生涯を偲んで～」を開催し、より理解を深めていただくため図録の作成を行った。

・寺田寅彦展では、弟子・中谷宇吉郎との関係を石川県加賀市の「中谷宇吉郎雪の科学館」との連携により紹介し、高知ゆかりの文学者の幅広い活躍や影響力の大きさを紹介した。

3) 県内外の文学館施設の交流

文学館協議会、瀬戸内文学館連絡協議会、ミュージアムネットワーク等へ参加するなど、県内外の文学館施設との交流、情報交換、専門性の向上に寄与する活動を行っている。

・事例報告及び意見交換議題 小さな展示室と膨大な資料、企画展の他館への展開（連携）、これからの文学館活動に期待すること等

・全国文館協議会共同テーマ展示「3.11文学館からのメッセージ -天災地変と文学」

評価	理由
B	所蔵資料の調査研究に継続して取り組み、成果報告として、顕彰作家のローテーション展示や寺田、宮尾の各展示室の年度テーマによる展示、企画コーナーにおけるメモリアルイヤーの作家紹介等を行った。

評価項目 (2) 研究活動の成果を、企画展や広報媒体などを活用し、広く公表する

状 況 説 明

- 1) 常設展における公開
 - ・平成27年度常設展示 宮崎夢柳、森下雨村、清岡卓行、北見志保子
 - ・「寺田寅彦記念室」において全国文学館協議会との協同展である「文学と天災地変」を開催し、当館での寺田寅彦の研究成果を中心に発表した。
- 2) 企画展
 - ・高知県ゆかりの作家を顕彰し紹介する企画展を2本行い、その研究成果として図録(宮尾登美子)を制作した。
- 3) 常設展示室の計画的充実
 - ・27年度は映像コーナーに新たに「森下雨村」「大原富枝」のストーリーを加えた。
- 4) 文学研究誌等への寄稿や講演
 - ・「高知大國文」に論文「寺田寅彦の連句とモダニズム」寄稿
 - ・物理系の科学者が中心となって書いた随筆や評論などを集めた雑誌「窮理」に「窮理の種」連載
 - ・文学学校、高知大学、地研青年技術士交流会等で講義
- 5) その他
 - ・最新情報はホームページを活用して発信している。27年度は情報項目などの大幅充実と最新情報掲載の円滑化を図った。
 - ・季刊報「藤並の森」を発行し、展覧会の所見や館の動向、シリーズ記事等を編集して、県内外の関係機関等に発送し、情報提供を行った。

評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室のローテーション展示や、寺田、宮尾の各展示室の年度テーマによる展示、「寺田寅彦記念室」の子供向け解説の充実など、リピーターや幅広い年齢層へのアプローチのための工夫がされている。また、そのことにより、常設展示の観覧者数増という成果が出ている。 ・市民の生涯学習講座や地域での学習者の集まりなどからの依頼がある等、より多くの県民への周知の機会が広がっている。

要求水準－展示・公開

優れた文学作品に触れる機会を提供し、文学の愉しさを伝える

評価項目 (1) 新鮮さと変化が感じられる常設展示や、時代の変化を踏まえ、様々な年代の知的好奇心に触れる企画展示を行い、5年間で10万人以上の観覧者を目指す

状況説明

1) 常設展示室

ローテーション方式による展示の入替を行い、常に新鮮さに配慮し、入館者は毎年増加傾向にある。企画コーナーにおけるメモリアルイヤーや追悼展の開催

平成27年度常設展示 宮崎夢柳、森下雨村、清岡卓行、北見志保子

2) 企画展示室

・高知ゆかりの作家の顕彰展

「ありがとう。宮尾登美子さん～88年の生涯を偲んで～」(観覧者数3,205人)

「親愛なる寺田先生～師・寺田寅彦と中谷宇吉郎展～」(1,338人)

・夏休み親子向け企画「ジャッキーだいすき！ーくまのがっこう展ー」(11,303人)

・全国的に人気の高い作品の企画「宮沢賢治 ことばの宇宙展」(3,001人)

・外国文学の紹介企画「FLOWER FAIRIES TM ～世界で愛される妖精たち～」(3,479人)

評価	理由
A	・高知県の文学作家の顕彰を中心に、様々な年齢層を対象にした質の高い展覧会を開催している。アンケート結果においても幅広い年齢層がバランス良く来館しており、成果として現れている。 ・毎年、観覧者のアンケート調査を基に、展覧会ごとの実態(性別・年齢・来館数・観覧者の住所・来館のきっかけ・展示内容等各種評価等)を集計、分析評価し、様々な年齢層に対応する企画を検討している。また、その努力が結果につながっている。

評価項目 (2) 次代を担う子どもたちに喜びと感動を与え、創造性豊かな心を育む企画展示を行う

状況説明

- ・夏休み企画展「ジャッキーだいすき！ーくまのがっこう展ー」を開催し、子どもたちが楽しみながら文学に親しめる展示を行った。(58日間 観覧者数11,303人)
- ・「FLOWER FAIRIES」展においては、妖精の世界を子どもたちに伝え、素直で純粋な心の大切さを伝える展示を行った。また、妖精に変身コーナー等、親子で楽しめる企画を行った。(61日間 3,479人)
- ・「寺田寅彦記念室」では、子どもたちの関心を高めるため、地震研究に関する資料等の子ども向け解説の充実や実験コーナーを設置した。
- ・展示のみならず体験型の工作イベント等、多彩な関連企画を実施した。(87回 7,637名参加)
- ・館から外へ出て子どもたちに文学への親しみを生み出す活動として「おはなしキャラバン」を実施した。(102回 3,654名参加)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ジャッキー展」や「FLOWER FAIRIES」展など、身近な絵本等をテーマにすることで、親子で楽しめる企画となり、多くの子どもたちの関心をとらえることができた。また、体験できるイベント等を行い、子どもたちの創造性豊かな心を育んだ。 ・こどもを対象とした企画展の実施や「おはなしキャラバン」活動により、団体鑑賞に訪れる学校が増えてきているなど、着実に成果を上げている。

評価項目(3) ギャラリートークの実施など、来館者の理解が深まる取り組みを行う

状況説明

- ・企画展開催中は、毎週土曜日に担当学芸員によるギャラリートークを行った。(101回 延べ参加者数2,129人)
- ・団体等の来館時には、担当者による展示解説を実施した。
- ・展覧会の関連企画として、本人、研究者等の講演会、対談、DVD等映像での解説を行った。
- ・「宮沢賢治ことばの宇宙展」では、動物や鉱石など立体的な展示物を配置し、感覚的に理解がしやすい展示手法を取り入れた。
- ・文学館のある藤並の森を舞台に“木漏れ日コンサート”を開催し、文学作品の時代背景や雰囲気音楽とのコラボレーションにより身近に感じてもらう取り組みを行った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・担当学芸員によるギャラリートークや解説、関連企画などを積極的に実施し、展示だけでは知ることのできない内容や文学作品の背景を伝えることにより、来館者の理解が深まる取り組みを行った。 ・関連企画等を通じて、文学作品の周辺にある時代背景や土地の暮らし等を身近に感じられる演出効果を目指して努力していることが認められる。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目 (1) 多彩な年代に応じた教育プログラムの実施により、来館者の文学への関心を高める

状況説明

・県民に親しまれる文学館を目指し、様々なテーマで積極的な教育活動を展開し、19,717人の参加者があった。

- ①文学カレッジ・文学専門講座等(12回 383人) ※毎月第四土曜
文学専門講座(年6回) 黒岩涙香、田中貢太郎、浜本浩、田岡典夫等を紹介
文学カレッジ(年6回) 宮崎夢柳、北見志保子、清岡卓行、宮尾登美子など
- ②朗読の会(12回 520人) ※毎月第三土曜
- ③児童生徒文学作品朗読コンクール
(4回 818人 夏:県内3箇所、秋:県審査(特別審査員に若山弦蔵氏を招聘))
- ④記念講演会(企画展関連)(5回 759人)
- ⑤ギャラリートーク(101回 2,129人)
- ⑥語りと紙芝居の会(13回 210人) ※毎月第二土曜
- ⑦おはなしキャラバン(102回 3,654人) ※毎月第一土曜
- ⑧土佐近世文学研究会(63回 277人)
- ⑨出張朗読会 (5回 638人)
- ⑩職員による講演会 (35回 2,692人)
- ⑪その他企画展関連イベント(87回 7,637人)

- ・高知大学地域協働学部の授業の一環としての受入を大学より依頼されて実施した。
- ・博物館実習、小中高や専門学校、大学等の授業と関連した団体鑑賞を例年受け入れている。

評価	理由
A	文学カレッジや専門講座、児童生徒文学作品朗読コンクールの開催をはじめ、職員の講師派遣やおはなしキャラバンなどのアウトリーチ活動を積極的に展開するなど、多彩な教育プログラムを実施した。

評価項目(2) 文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を拡げる

状 況 説 明

- ・「朗読の会」や作家市原麟一郎氏らによる「語りと紙芝居の会」において、発表の場を設け、受講者のスキルを高める取り組みを行った。
- ・所蔵の近世文学資料を用い古文書解読の上級者を会員とした「近世土佐文学研究会」を開催し、その活動を支援した。

評 価	理 由
B	朗読者養成講習の実施や、文学研究会への館所蔵資料の提供などにより、文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援した。

評価項目 高知の文学に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状 況 説 明

1) 広報媒体の活用

- ・新聞・テレビ・ラジオ、各種情報誌などへ積極的な情報提供を行い、タイムリーな情報発信を行った。
- ・ポスター・チラシ等の配布にあたり、配布先で広報実態の出口調査を行い、ニーズを確認した。
- ・大学の研究誌や新聞の学芸欄等への連載など紙面を通じてこちらの文学の情報発信を行った。
- ・最新情報を随時ホームページで発信した。情報項目などの内容の大幅充実と最新情報掲載の円滑化を図った。またフェイスブック等も活用し、様々な角度から魅力を発信した。
- ・企画展の連携で県外文化施設(石川県「雪の科学館」、岩手県「岩手大学農学部附属博物館」)を通じて当館の情報を発信するなど、高知の文化を紹介することができた。

2) 講演会への職員派遣

市民生涯大学・シルバー大学・教育関係者研修会、高知大学等において、講師を務め、土佐文学全般や展覧会について広く伝えた。

3) 高知大学地域共働学部との連携

インターンシップ生の受け入れなど、大学との連携を通じて文学館のPRを行った。

4) 県外へのPR

近年の当館の企画展の組み立てに関して、全国の文学館等からの問い合わせも多くなった。夏休みの企画展や当館が全国で初めて行った内容の展覧会がその後、他県の文学館で開催されることも見受けられるようになった。

評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種広報媒体を利用して企画展等の情報発信し、ホームページの活用など、積極的で戦略的な広報活動を行っている。 ・講演会などを通じて、高知の文学について広く伝える取り組みを行っている。

評価項目 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状 況 説 明

- ・全国の文学館組織である「全国文学館協議会」や「瀬戸内文学館連絡協議会」へ加入しており、当該組織において情報交換など連携を図ることで、展覧会等での協力体制の円滑化や強化に役立っている。
- ・こうちミュージアムネットワークでは、県内の文化施設との連携や情報共有に努めた。また、維新150年での県内施設との情報共有、高知城お城下ネットワーク等に参加した。
- ・寺田展での科学資料展示や実験イベントでの連携、宮沢展での自然史資料の借用や化石堀りイベントでの連携など、各企画展において関係する県外文化施設との資料の貸し借りや情報交換を行い、幅広い資料の公開を行うことで県民サービスの向上を図った。
- ・県内の市町立の文学館に当館で制作したDVDの寄贈を行った。
- ・子ども企画などを扱っている民間会社などとの情報交換を密にし、時代のニーズや各社の企画などの情報の入手に努め、より魅力ある企画展の開催につなげた。

評 価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国文学館協会との共催による企画「天災地変と文学」の展示のように、全国の文学館組織や文化施設等との連携を図り、資料の借用や情報の共有を行うことにより、より魅力ある企画展の開催につなげている。 ・民間会社との連携により把握した情報を、夏休み企画展等の企画立案に活かしている。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) 適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

- 1) 社会的責任
公益財団法人高知県文化財団の各種規定により、法令を順守した管理運営を行っている。
- 2) 建物や設備の管理
修繕の実施金額は1,460千円であり、主たる修繕は以下のとおり
- ・空調設備制御機器取換108千円
 - ・宮尾室壁付き展示ケース内照明更新489千円
 - ・消防設備関係修理364千円
 - ・自家発電機修理207千円 他14件
 - ・藤並の森の管理 植栽管理作業828千円 支障木除去作業265千円
- 3) 危機管理
- ・風水害、地震、火災等の危機管理については、防災管理者を選択し対応マニュアルに沿って管理している。
 - ・役割分担のマニュアルを配布し自分の対応部署の把握に努め、防火(防災:地震対応型)訓練を実施して備えている。

評価	理由
B	適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目	
(2)利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映、自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上・研修の実施状況・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<p>1) 利用者の意見の反映 展覧会ごとの実態(性別、年齢、来館数、観覧者の住所、来館のきっかけ、展示内容等各種評価等)を集計し、分析評価し、様々な年齢層に対応する企画展の開催をはじめ、サービス向上のための基礎資料として活用し、良好な施設づくりに取り組んだ。</p> <p>2) 自己点検 全職員が参加するCS運動の実施により、職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、毎月の目標を設定しながら、サービス向上のための改善に取り組んだ。</p> <p>3) 評価の状況 来館者アンケート「顧客満足度」によると、「大変良い」、「良い」の評価が9割を超えている。</p> <p>4) 職員の専門性の向上と研修の実施状況 全国文学館協議会や瀬戸内文学館連絡協議会への研修参加や、東京文化財研究所主催の保存関係の専門研修に参加し、専門分野の知識向上スキルアップに努め、実践につないだ。 また、県外の展覧会視察や民間の展示方法等の研究により発想力を研鑽し企画展や催事を行い、顧客サービスの改善に努めた。 近年増加している外国人来館者の対応のため、県の国際交流員を講師に招いて、英会話の勉強を定期的実施した。</p>

評価	理由
A	来館者対応のため英会話の勉強を定期的実施する等、独自の研修を行い、利用者サービスの維持向上に努めており、来館者アンケートで高い評価を得ている。

評価項目		
(3) 利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明	
<p>1) 利用実績の状況</p> <p>開館日数360日 うち企画展開催日数306日 (H26実績338日 うち企画展開催日数274日)</p> <p><u>総利用者数50,424人</u> (H26実績48,019人 対前年比105%)</p> <p>※ 企画展観覧者で、併せて常設展示室を観覧した入館者をカウントすると、常設展示観覧者は11,877人となり、観覧者ベースでの数字は35,162人となり、総利用者数は50,424人となる。</p> <p>うち常設観覧者数2,247人 (H26実績2,115人 対前年比106.3%)</p> <p>うち企画展観覧者数23,285人 (H26実績19,577人 対前年比118.9%)</p> <p>うち教育普及事業参加者数19,717人 (H26実績14,586人 対前年比135.1%)</p> <p>うちホール・茶室利用者数15,262人 (H26実績11,741人 対前年比129.9%)</p> <p>2) 利用状況の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総利用者数が前年度よりも増加している理由の一つに、27年度は年間360日の開館ができ、工事等による臨時休館がなかったことが挙げられる。 ・企画展観覧者数については、27年度の企画展の内容が、ゆかりの作家や郷土を舞台とした作品、こどもたちに人気のある作品、全国的に人気の高い作品等、ニーズを見越した内容の企画が、入館者増につながったとみられる。 ・常設観覧者数については、毎年入場者が増加しており、展示内容の更新の効果が出ているものとみられる。 ・教育普及事業参加数については、企画展関連イベントの回数が、26年度の32回と比較して27年度は87回開催するなど、27年度は精力的に実施しており、その分の参加者数の増によるものとみられる。 ・ホール・茶室利用者については、年によって変動があるが、近年は毎年の利用者数が安定してきている状態である。 	

評価	理由
A	常設展、企画展の目標観覧者数20,000人を上回る25,532人の観覧実績があった。

評価項目		
(4) 収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<p>・優良な企画展の開催といつ来ても新鮮な常設展を合言葉に観覧者の来館推進を図った。</p> <p>・ミュージアムショップにおいても企画展と連動したグッズの販売を行い、販売促進を行った。</p> <p>27年度ミュージアムショップ売上額 約1,082万円</p> <p>・経費の中で一番大きなウエイトを占める電気料の削減について、不用な部分のこまめな消灯、空調機器の一齐稼働の防止等により、消費電力の削減を図った。</p> <p>・消耗品の在庫見直しによる無駄な購入の防止、コピー機・印刷機の有効活用による使用料削減等を行った。</p> <p>・キャプション、展示物を職員が自作することで、委託料や印刷費の削減を行った。</p>

評価	理由
A	収入増加や経費削減の取り組みの努力が認められる。

総合評価

評価	理由
A	<p>・常設展示の計画的充実や魅力ある企画展の開催等、データに基づく戦略的情報発信と、日頃からの地道な取組の積み重ねにより、着実に成果が表れている。</p> <p>・アンケート調査についても、接客や環境・快適性について高評価を得ており、優れた管理運営、事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。